

公共施設マネジメント実施計画見直し検討会議 議事録

会議名	第2回 公共施設マネジメント実施計画見直し検討会議	
日時	令和3年7月2日（金）午後3時10分から午後5時まで	
開催場所	こまき多世代交流プラザ、オンライン会議システム Zoom	
出席者	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋大学教授 高野雅夫 ・名古屋大学教授 恒川和久 ・愛知工業大学教授 安井秀夫 ・愛知工業大学講師 益尾孝祐 ・(髙) まちの縁側育くみ隊 代表理事 名畑恵 ・(株) 三菱総合研究所 主席研究員 川口荘介 (Zoom) ・企画部長 大森康弘 (Zoom) ・総務部長 平野敦義 ・建設部長 鈴木伸尚 (Zoom) ・教育部長 嶋田丈裕
	小牧市	資産管理課 加藤様 外3名
	事務局	公共施設マネジメント課 小田次長 高橋課長 上田課長補佐 尾寄 (以上、現地) 星野 (Zoom)
議題	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの事業の評価について ・計画に盛り込む視点の追加について ・数値目標について 	
<p>1 施設の視察</p> <p>(1) 小牧市中央図書館</p> <p>(2) こまき多世代交流プラザ</p> <p>2 開会</p> <p>(恒川会長) 開会</p> <p>3 小牧市の取り組みについての紹介</p> <p>(小牧市加藤様) 小牧市の公共施設マネジメントの取り組みについて説明</p> <p>(恒川会長) 小牧市では施設の面積縮減などの目標は掲げているか。</p> <p>(小牧市加藤様) 小牧市の特徴として市が地域集会施設を保有している点があげられる。廃止・集約や小学校との複合化など、今後見直しを図っていきたいと考えている。</p> <p>(恒川会長) 小牧市は、ファシリティマネジメント担当が建築技師で構成さ</p>		

- れており、保全計画や予算執行の管理に力を入れている。一方で、先ほど見学した図書館や多世代交流プラザの様子を見ると、財政的にそこまで緊迫していないように感じた。自治体によって置かれた状況や取り組み方は様々だ。
- (総務部長) 資産管理課で施設保全に係る予算査定を行っているとのことだが、財政担当課は施設関係については査定をしていないということか。
- (小牧市加藤様) 当課で査定の上、財政担当課にて更に査定が行われる。財政担当課の査定で予算が切られてしまうことも多々ある。
- (恒川会長) 資産管理課はどここの部局に属しているのか。
- (小牧市加藤様) 財政担当課と同じ総務部局。大枠は財政担当と調整をして予算を組んでいくが、財政的に厳しい部分があり、思うようにはできない。
- (恒川会長) この5年間で保全計画通り長寿命化工事等は進んでいるか。
- (小牧市担当者) 昨年度保全計画を策定し、今後10年間で予定している工事一覧は施設所管課と共有している状況。計画をもとに予算要求をし、工事を実施するという流れができたところだ。

4 協議事項

(1) 今までの事業の評価について

- (事務局) 資料1-1 全市利用型施設における取り組み、
資料1-2 地区利用型施設における取り組みについて説明
- (益尾委員) 今後立地適正化計画の見直しを進める中で、津波や高潮などのハザードマップと施設再配置の考え方はどのように考えているのか。
- (事務局) 建築が制限されるエリアはないが、立地適正化計画の改正がどのように影響してくるか図りかねているところだ。都市計画担当に確認をする。
- (恒川会長) 先日福祉施設を見学し、相当古いと感じたが、施設の状況だけで今後を判断するのではなく、市の福祉施策によるところだと思う。今後どのように考えているのか。
- (事務局) 福祉施策としての方針によるところではあるが、勤労福祉会館や生きがいセンターは貸館的機能が主となっている。機能を分解し、再整理する必要があると感じている。
- (恒川会長) 貸館についてはその通りだ。福祉としての機能ではない。市民会館等と同じ所管にして一元的に管理・借りられる体制も考

えられる。同様に会議室機能を持つ施設が多数あるので、整理をする必要はあると思う。

先ほど現在までの実績について説明があったが、実施計画の見直しについて、この会議体で特に議論してほしい内容はどういった部分か。

(事務局) 昨年度議論していただいた大型教育施設と福祉施設については施設規模が大きいですが、なかなか検討が進んでいないため課題だと感じている。

(安井委員) 今後やるべきことが時間軸として提示されると今やるべきことの検討ができるが、今の状態ではどうしていいかわからない。ビジョン検討についても有識者会議で検討すべきことなのか。

(事務局) ビジョンについては有識者の皆さまからご意見をいただきたい。今後、市民フォーラム・ヒアリングを実施し、市民意見を踏まえながら、昨年度検討したビジョン案を完成形に持っていく。皆様からも助言をいただければと検討が深まるのでご協力いただきたい。

(恒川会長) 小牧市が作成したアクションプランのように今後の見通しが見えたと検討しやすい。あるいは、第1期、第2期と期間を分け、地図に落とし込んでいくようなことも必要ではないか。

(高野委員) 勤労福祉会館は、社会福祉協議会などが使用しており、建物は古いが施設としては機能している。この会議体で一から議論する必要はなく、利用者の意見を聞き、計画に反映していけば方向性は見えてくるのではないかと思う。

(事務局) 基本は所管課と事務局とで検討を行うが、皆さまからも漏れている視点がないか等適宜ご助言いただきたい。

(高野委員) 小牧市の図書館は15回ものワークショップを実施し、参加者がその後も運営に関わっているという理想的な形だが、その分労力も必要だ。手をかけて検討すべき施設と従来の利用者から意見を聞くにとどめる施設とに色分けをして進めるべきだ。

市民会館等については、設置後に利用してもらうためにもある程度手をかけるべき施設だと思う。

(恒川会長) おっしゃる通り、市民会館についてはどのように運営に反映し、流れに乗せていくのかが実施計画でも大事なポイントとなる。先ほど話に出た勤労福祉会館についても、まちづくり

センター等の利用者が今後どのように関わっていけるのか、その流れを作ることが市民フォーラムの役割だとも思う。小中学校などの地区利用型施設については塩津・西浦で基本計画案が作成され、パブリックコメントをしているのを拝見した。まさに地域の方と関わって検討を行うべき時だ。運営やデザイン含めて皆が納得できるものを作る必要があるので、設計者選定の際には今後どう進めていくのかしっかりと検討を行うべきだ。

(益尾委員) どこに焦点を絞ればいいのかやっぱり分からない。高齢者福祉をどこまで民間に委ねるのか等、福祉施策としての見極めが必要だ。貸館機能や公営住宅についても政策的な判断が必要となってくる部分だ。その意味では昨年度は丁寧に議論できていた。有識者会議の目的がどこにあるのか、各部局の計画を総合的に考えるというのはこの役割ではないと思う。

(事務局) 委員の皆さまと事務局だけではわからない部分もあるので、各施設の担当課と事務局とで調整をしながら、的を絞って議論していただく形になるかと思う。

(益尾委員) 全ての施設について議論するよりも、昨年度議論をした5施設+αを詳細に検討するという方が今年の有識者会議の進め方としてはいいのでは。

(企画部長) 図書館については昨年度の報告書で増床・移転を提案していたが、将来的な規模が判断しにくい施設だと感じている。小牧市と見比べて蒲郡市の図書館について面積拡大が必要なのか感じた点があれば教えていただきたい。

(教育部長) 小牧市も公共施設マネジメントを進める中で、図書館についてはまちづくりとして位置づけ、特別な使命を与えていた。蒲郡市においても新たな役割を与えて進めていけるのであれば、拡大を視野に入れて検討すべきだと感じた。

(名畑委員) 私自身も小牧市の図書館のユーザーだが、1階部分のみ開館時間が長い点などは、図書館としてだけでなくまちの居場所としての充実が図られていると感じている。面積としての充実だけでなく、複合的な意味での充実が図られている。

(高野委員) 小牧市の図書館は、図書館単体での検討ではなく、駅前中心市街地の賑わいがないという課題から、市民が図書館をまちの居場所としてとらえ、実現してきたという流れがある。蒲郡においても駅前や海沿いを魅力あるものにするというストー

リーの中でどう位置付け、市民の声を取り入れていくのが大切だと感じた。

(恒川委員) 図書館を専門としている愛知工業大学の中井教授曰く、図書館の蔵書数などは人口に比例することが多いが、人口の小さい町だから小さい図書館でいいというものではない、とのこと。蒲郡市においても居場所になるという作り方、魅力を作るという考え方をすると規模が大きくなるのは仕方がないと感じる。公共施設マネジメントの考え方とは反するが、面積に縛られて中途半端なものを作ってしまうのは一番よくないので、全体として考えてほしい。

(益尾委員) 小牧市の図書館はまちの居場所として戦略的に作られている施設だと感じた。単純な圧縮の議論だけではなく、立地やまちの再生を担う施設として、東港と合わせて考えるのか、駅前なのか、戦略的に進めていけるとよいと感じた。

(2) 計画に盛り込む視点の追加について

(事務局) 資料2 公共施設マネジメント実施計画抜粋について説明

(恒川委員) 個人的には基本方針の5つのキーワードに沿って記載されている現在の形にこだわらなくてもよいのではないかと思う。一から見直しをすることにはなるが、より大事なことがわかる書き方のほうが良いのではないか。

(益尾委員) リーディングプロジェクトとして駅前や学校の話が掲げられているのは分かりやすく良い。福祉施設の議論については、追加するのであればDX化等と同様に他の部分に追加するのがよいと思う。

目に見える形で動かしていきたい部分についてリーディングプロジェクトに記載するほうがよい。

(高野委員) 市民がどのように関わっていくのが読み取れない。利用者としての関わり、協働（ともに施策を作る）としての関わり、常連客としての関わり、そういった市民との関わり方がわかるとよい。

(川口委員) 実施計画の改訂なので、策定時からの変化（DXやカーボンニュートラル等）にあわせて記載内容を変更していけばよい。また、市民目線での追加についてはエビデンスをみながら挙げていくべきだと感じた。

(建設部長) 貸館機能の集約や居場所づくりには公共施設の設置場所がポイ

ントとなる。リーディングプロジェクトにも駅に近い便利な場所という文言があり、各施設について立地の視点での記載も必要かと思った。

(恒川委員) 市全体から利便性の高い場所か、もしくは地域から使いやすい場所であればいい等は施設による。立地の視点でも議論ができるとよい。

(3) 数値目標について

(事務局) 資料3 数値目標について説明

(高野委員) 説明を聞くと304億円(実績額11.7億円×26年)は支出できる前提の話だと感じたが、財政的見込みはどうか。

(総務部長) 難しい部分ではあるが、出せる前提として考えていきたい。基金など財政計画とどう連動させていくのかが課題だと感じている。

(高野委員) 307億円(さらに確保が必要な額)は公共施設の中で何とかする金額なのか、それとも他項目のお金を充てることのできる可能性があるのか。

(総務部長) 財政計画の中でそういったお金が出てくる可能性はあるが、基本的には公共施設マネジメントの中で何とかしていきたい額だと思っている。

(高野委員) 307億円は確保できる見込みがあるのか。

(事務局) あくまで試算の段階ではあるが、何とか確保していきたい。

(川口委員) 総務省は総合管理計画の改訂にあたり、611億円(維持管理経費の見込み)に均衡した財政計画の策定、つまり充当可能な金額での総合管理計画の策定を求めている。金額面での目標設定をどうしていくのかが課題となると思われる。

(恒川会長) 307億円(確保が必要な額)をどのように作り出すのか、もしくは611億円(維持管理費用の見込み)をさらに削減していくのか、目標をどのように達成していくのかをはっきりさせるべきかと思う。計画を実現すれば目標達成できる、でないといけないのではないか。そこが分かりにくいところもある。

小牧市の状況を参考に聞きたい。

(小牧市担当者) 目標は掲げていない状況。会館(地域集会施設)について検討をという話はあるが、どれだけ削減するかというところには至っていない。

- (高野委員) 充当できるラインがどこかが大事になるかと思う。
- (総務部長) 基金が使えるということなら使える額が増えていく。公共施設マネジメントで減らす額というのは財政計画との兼ね合いの中で検討していくのだと思う。
- (高野委員) 話を戻してしまうが、資料1を見ると部局をまたいだ連携ができそうな施設が多くあると感じる。例えば観光施設である文学記念館。単なる展示だけでなく、図書館と連携し、書く・読むといったプログラムを作り子ども達を育てることができるのでは。そういった連携ができる施設が他にもあると思う。
- (恒川委員) 所管課が作っているものを越えて何をやるべきか考えるのがこの場なのかな、と思う。

5 その他

- ・日程調整
- ・令和2年度委託業務報告書の公開について
- ・市民フォーラム・グループヒアリングの紹介